

内藤耻史 （初号） 儒者、史學者。文政九年常陸國水戸生れ、明治二十年六月七日歿（八六一―九〇二）。諱止直、字仲養・王道、通稱彌太夫。別號碧海。藩校弘道館に入り、會澤止志齋、藤田東湖の學ぶ。慶應元年同館教授、のち脱藩して東北各地に潜居。その後上京して小石川區長、群馬縣中學校校長等々歴任。明治十九年帝國大學文科大學教授となり、皇典講究所のごと歴史を教授。（二十一年宮内省囑託。

著書に、『開國安政紀事―附開國始末辨妄』（明治二十一年六月十五日東崖堂）、校訂『御定書百ヶ條』（明治二十二年十一月八日松野貞雄刊、日本文學發行所發賣）、『勅語解釋』（明治二十二年十一月六日青山清吉刊）、『勅語俗訓』（明治二十三年十一月（二十三年青山堂金屋）、『祝日祭典由来』（明治二十四年六月二十日青山清吉・鈴木正文助刊）、『徳川十五代史』（第一編・明治二十五年十月十日博文館）、『國體發揮』（再版・明治二十六年五月十六日博文館）、『日本兵士』（明治二十八年一月（二十二年岡島支店）、『參正治物語註釋』（平井賴吉共著、上製合本・明治二十三年九月（二十一年青山清吉刊）等その他、博文館版「支那文學全書」の内『小學』、『孝經講義』（明治二十五年八月八日）、『近思錄講義』（明治二十六年三月（二十一年））、『文中子講義』（明治二十六年七月（二十八年））等多數。

